

白・青は、美的効果はすばらしいにもかかわらず、あるドイツの一連邦の色として、遺憾ながら評判のよくない分離主義の偏狭さという政治的立場をあらわしているものとして、問題外である。さらに人々はこのでもまたわれわれの運動を表示するものを見いだすのは非常に困難である。黒・白に対しても同じことがいえた。

黒・赤・金は、もとより問題にならなかった。

また黒・白・赤は、上述した理由から、問題にならず、いずれにせよいままでの表現では問題外である。たしかに効果という点では、この色の組み合わせは他のすべてのものをこえて高くそびえている。それは現存するものの中で最も輝かしい調和である。

わたし自身は、つねにこの昔の色を残しておく考えだった。それは兵士としてのわたしにとつて、わたしの知っているかぎりの最も神聖なものであったからというだけでなく、その美的効果においてもわたしの感覚に、はるかにびつたりするものであったのだ。それにもかかわらずわたしは、当時若い運動の各方面から渡された無数の図案——そして古い旗の中にはハーケンクロイツを描いたものだった——を、例外なく拒否せざるをえなかった。わたし自身は——指導者として——わたし自身の図案をすぐに公にしたくなかった。とにかく他の人が、りっぱな、あるいはおそろくもとりっぱなものをもってくる可能性があったからである。實際上、シュタルンベルクのある歯科医も、かなり悪くない、そのうえわたしの図案にかなり近い図案を提出した。ただ一つ欠点があった。すなわち、かぎの湾曲したハーケンクロイツが、白い円の中にはめこまれていたものだった。

これはハーケンクロイツの形と太さに一定の割合をきめたのだ
 白の間にわたし自身が、いろいろとやってみて最後の形を描いた。すなわち、赤地に白い円を染め抜き、その真中に黒のハーケンクロイツを描いた旗である。長い間試みた後にわたしはまた、旗の大きさと白い円の大きさと、同じくハーケンクロイツの形と太さに一定の割合をきめたのだ。

11-42701

そしてそれが、最後まで残された。

同じ意味で、整理隊のための腕章もその後ただちに作図された。しかも、赤い腕章で、同じように白い円を抜き、黒いハーケンクロイツを描いたものだった。

党員章も、同じ規準にしたがって立案された。すなわち、赤地に白い円、中央はハーケンクロイツを描いた。ミュンヘンの金細工師、フュースが、はじめて使いうる図案を作り、その後それが決定された。

1920年の盛夏にはじめて、この新しい旗が公衆の前にあらわれた。それはりっぱにわれわれの若い運動に適合した。運動が若く新しかったように、旗もまた若く新しかった。それはだれもそれ以前に見たことがなく、当時、点火用の炬火のような効果があった。ある忠実な女子黨員が、はじめて図案をしあげ、旗を引きわたしたとき、われわれ自身、みんなほとんど子どものような喜びを味わった。はやくも数か月後、われわれはミュンヘンでそれを六本もっていた。そしてますます拡大する整理隊は、特にこの運動の新しいシンボルを広めるのに役立った。

国家社会主義の象徴の説明

しかもこれはまさしく一つのシンボルなのだ！ われわれみんな